

すばらしい人に最高の余暇を



Contents

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 01 会長メッセージ | 09 連結財務諸表(要約) |
| 03 トップインタビュー | 11 コーポレートデータ |
| 06 企業の社会的責任(CSR)への取り組み | 12 株式情報 |
| 07 TOPICS | 13 IRコミュニティ |
| 新たなエンタテインメントの創出に向けた取り組み | 14 第三者によるフィールズの分析レポート |

このたびの東日本大震災により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い心身とものご回復と地域のご復興をお祈り申し上げます。

当社グループは、復興支援に最大限協力すべく思慮を重ねてまいりましたが、とりわけ新しい未来を切り開く子供たちへの支援活動を永続的に展開していくことがきわめて重要と考え、グループ全体が一丸となって「ウルトラマン基金」に思いを託し、被災者の方々の傷つかれた精神をケアすることを含めた物心両面からのご支援を粘り強く継続的に実施していくことをお約束いたします。

代表取締役会長 (CEO)

山本 英俊

山本 英俊

すべての人に最高の余暇を

The Greatest Leisure for All People

わが国の産業は、かねてより世の中の人々の思いに応えることで、大きな利益機会と成長活力を創出してきました。なかでも、国民に豊かさをもたらした貿易産業や世界に類例のない長寿社会を実現した医療産業、また、人々の自由な時間を創出したテクノロジーの進化などは21世紀の成熟化する社会の礎となり、人々は増加をたどる余暇時間に多様な時間消費のニーズを生み出すこととなりました。

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げる当社及び当社グループは、増加する余暇時間にエンタテインメント性の高い商品やサービスを提供するとともに、未来の人々の心を豊かにする余暇のあり方について調査・研究を重ねてきました。そして、2003年の株式上場時には将来的な成長を牽引するコンテンツを中核としたビジネススキームを掲げ、そこから優良IP(知的財産)の取得・保有・創出や、最先端のクリエイティブ&テクノロジーの融合・複合を重ねることで、このコアモデルは進化を遂げながら力強く生き続けています。

2011年11月1日には、(株)小学館クリエイティブと共同で設立した(株)ヒーローズから月刊ヒーローズを創刊しましたが、流通領域では(株)セブン-イレブン・ジャパンに多大なご協力を頂くなど、有力パートナー企業と連携した新たなIPの創出はビジネススキームのさらなる進化に結びつくものと考えています。そして、このような将来に向けた様々な諸施策が他の分野でも着実に成果となって現われつつあり、これが世の中の人々の思いと響き合うとき、当社グループに新たな収益機会と企業価値の向上がもたらされると確信しています。

私たちフィールズグループは、これからも多様な価値観を有する多くの人々に新鮮な感動や驚きを体験できるエンタテインメントを創造してまいります。同時に、ウルトラマン基金などの復興支援活動のみならず、事業そのものも社会全体の幸せに寄与し、皆様からの信頼に応えられるよう全社一丸となってまい進してまいります。

これまでも企業理念にご賛同賜りお力添え頂きました株主の皆様へ深謝いたしますとともに、当社及び当社グループが切り開く未来にご期待頂き、引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

2011年11月



代表取締役社長 (COO)
大屋 高志

大屋 高志

■ 2012年3月期上半期の総括

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本株主通信をお届けするにあたり、平素のご支援とご愛顧に深く感謝申し上げます。

「すべての人に最高の余暇を」という企業理念を掲げる当社及び当社グループは、その実現に向けて、世の中の人々の豊かさや幸せに資する様々な施策に取り組んでいます。当上半期のパチンコ・パチスロ関連事業は、東日本大震災の影響を勘案した下半期重視の販売スケジュールのもと、パチスロ遊技機2機種、パチンコ遊技機1機種を販売しました。一方、その他のエンタテインメント事業は、近年興隆するモバイル・オンラインサービス分野に対して新たなサービスの展開に向けた投資を実施するとともに、スポーツ分野では今後の成長や各事業を取り巻く市場環境を鑑みて事業再編を実施しました。

これらの結果、当上半期の連結業績は、売上高33,352百万円(前年同期比22.5%減)、営業利益1,582百万円(同82.8%減)、経常利益1,713百万円(同82.0%減)となりました。なお、四半期純利益は、事業再編に伴う繰延税金資産を計上し法人税等が減少したため、2,428百万円(同55.3%減)となりました。

■ パチンコ・パチスロ関連事業の取り組み

パチンコ・パチスロ市場は、震災直後から電子部品の不足に伴う新台供給力の低下や、娯楽全般の自粛などの影響が懸念されていました。しかし、当第2四半期に入りサプライチェーン(供給網)が復旧し、メーカー各社も供給量の回復に向けて体制を強化しており、遊技機販売市場も回復に向けて動き出しています。加えて、パチンコホールでは本来的に備わっている地域コミュニティ機能が再評価されたことで、パチンコ・パチスロが手軽に楽しめる大衆娯楽としての存在感を示し、その結果、集客力(稼動)は震災以前を維持、もしくは上回る状況を見せています。

このような状況下、当社は広くエンタテインメントの観点からパチンコ・パチスロビジネスをとらえ、エンタテインメント性に優れた遊技機の企画・開発・販売に注力しました。なお、当上半期の遊技機販売については、パチスロ遊技機「SAMURAI 7」「旋風の用心棒～胡蝶の記憶～」、パチンコ遊技機「CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-」を販売し、総販売台数は151,254台となりました。

■ その他のエンタテインメント事業の取り組み

その他のエンタテインメント事業は、幅広いエンタテインメント領域での幾多の挑戦が着実な成果となって表れつつあります。

モバイルを含むオンラインサービス関連では、当上半期も引き続き有料会員数の拡大を目指し、パチンコ・パチスロ関連コンテンツを活用したサービスの拡充に加え、パチンコ・パチスロ関連以外でも保有コンテンツを活かした新サービスの拡充に努めました。今後も、これらの取り組みに加え、将来的なマネタイズの仕組み作りも含めオンラインサービス分野の収益性を高める施策を推進していきます。

スポーツ関連では、2011年8月23日付「当社と子会社間での簡易吸収分割、及び子会社の特別清算に関するお知らせ」の通り、ジャパン・スポーツ・マーケティング(株)の抜本的な事業再編を実施しました。同社は主に三つの事業を展開していましたが、フィットネスクラブ事業は今後も大きな成長が見込まれることや、IP(知的財産)の獲得も含めその他のエンタテインメント事業とのシナジー効果が期待されることを踏まえ、会社分割したうえで当社が承継することとしました。一方、その他の事業は、各事業を取り巻く市場環境が著しく変化していることから収益機会の創出を図ることは困難と判断し、同社の解散と同時に撤退することとしました。

映像関連の(株)円谷プロダクションでは、当社グループ企業となって約1年半が経過するなかで明らかになった経営課題に対する検討を重ね、将来計画の策定に着手しました。同社は、ウルトラマンシリーズなど従来から保有するIPの再活性化だけでなく、新しいIPの開発などを通じて収益性を高め、ブランド価値の向上を図るための諸施策を推進しています。

(株)デジタル・フロンティアは、ゲーム及びパチンコ・パチスロ遊技機向けコンピュータ・グラフィックス(CG)制作に加え、2011年9月に公開された映画「鉄拳 ブラッド・ベンジェンス 3D」のCG制作全般を担当するなど、映像制作事業を拡大しました。同社は、映画・ゲームなどの長編CG制作の依頼増加に応える制作ラインの拡充が課題であるため、国内のみならず海外で制作ライン確保を行い、体制強化を図っています。



専務取締役(グループ事業管掌 兼 事業本部長)
繁松 徹也

敏 松 徹 也

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)は、3D映像関連技術を活かしたデジタルコンテンツ制作を進める一方、設立時より企画・プロデュースしている大型プロジェクトである劇場アニメーション「ベルセルク 黄金時代篇I 覇王の卵」(2012年2月公開予定)で着実な実績をあげるべく、多様なメディアとのタイアップ企画を推進しました。

コンテンツ開発関連は、(株)小学館クリエイティブとの共同出資で設立した出版会社(株)ヒーローズが未来形コミック月刊ヒーローズの2011年11月1日創刊に向けた準備を進め、優良IPの開発・創造に必要な基盤強化に注力しました。今後、同誌のコンテンツ充実を図るとともに、パチンコ・パチスロ関連を含めた多様な分野でのクロスメディア展開を積極的に推進していきます。

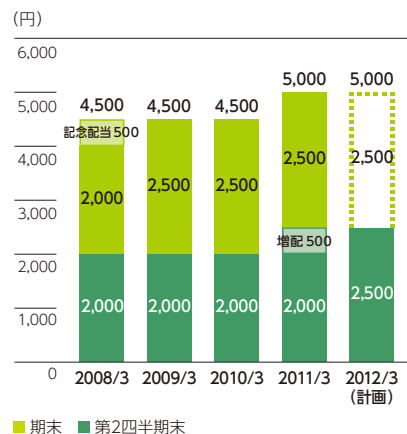
■ 2012年3月期の見通し

2012年3月期の連結業績見通しは、売上高100,000百万円(前年同期比3.5%減)、営業利益14,000百万円(同6.6%増)、経常利益14,000百万円(同2.3%増)、当期純利益8,000百万円(同6.4%増)を見込んでいます。

前述の通り、当期のパチンコ・パチスロ関連事業は、震災の影響による電子部品の不足などを勘案した下半期重視の遊技機販売スケジュールを計画しており、市場の盛り上がりさらなる期待が高まる下半期に、パチンコ・パチスロ遊技機ともに市場の活性化を牽引できる複数の大型タイトルを投入していきます。なかでも、パチンコ遊技機では多くのファンの皆様が楽しめるゲーム性やエンタテインメント性を取り入れた「CRエヴァンゲリオン7」の発売を予定しています。また、その他のエンタテインメント事業では、幅広いエンタテインメント分野において当社グループの目指すべき商品やサービスが提供できるものと考えています。

株主の皆様におかれましては、このような当社及び当社グループの成果の一つひとつにご期待頂き、引き続き長期的なご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1株当たり配当金の推移



企業の社会的責任(CSR)への取り組み

CSRに対する基本的な考え方

当社は、「すべての人に最高の余暇を」という企業理念の実現に向け、社会や人々の豊かさに資するエンタテインメントを提供しています。そして、この事業活動を永続的に推進し社会と共栄することが当社のCSRにおける基本的な考え方であり、その基盤となる経営の健全性や社会からの信頼・尊敬を得るために、CSR活動は重要な役割を担っています。

2008年に組織したCSR委員会は、企業行動規範の制定と啓蒙活動を推進するとともに、委員会の傘下に6つのワーキンググループを設置し、社会貢献に資する活動やコンプライアンス研修、情報セキュリティ強化などに努めています。加えて、東日本大震災により被災した地域に対する復興支援においては、グループ全体が一丸となって「ウルトラマン基金」に思いを託し、新しい未来を切り開く子供たちへの物心両面からの支援活動に継続的に取り組んでいます。

フィールズグループは、企業として持続的な成長と、それに伴う社会的責任を果たすべく、今後も着実に一歩ずつ前進してまいりますので、株主の皆様におかれましては長期的なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

* 当社CSR活動の詳細については、WEBサイト(<http://www.fields.biz>)をご覧ください。

グループCSRトピックス

「ウルトラマン基金」に対する声～岩手県宮古市、大槌町～ ウルトラマン基金では、未来を切り開く子供たちへの支援活動の一環として、岩手県宮古市及び大槌町にマイクロバスを寄贈しました。



宮古市では、東日本大震災により通学が困難な子供たちをバスで学校に送迎していますが、大型バスでの移動が困難な場所ではウルトラマン基金から頂いたマイクロバスが大変助けになっており、多くの子供たちからもあのバスに乗りたいと言われるほど、町全体を明るい色で元気にしていると肌で感じています。

復興には一定期間を必要としますが、基金には子供たちが明るく元気に過ごせるよう長期的に支援活動を続けて頂きたいと思います。



宮古市
総務企画部長 坂下 昇

私は、大槌町の第三セクターで路線バスの仕事を引き受けていますが、東日本大震災後は町民を避難所から医療施設へ運ぶためにとの想いで営業を再開しました。

ウルトラマン基金から寄贈されたバスは幼稚園児たちのために活用していますが、運動会の練習の送迎では、バスに乗るのを楽しみに練習をがんばると話す子供たちの笑顔に心からよかったですと感じています。今、大槌町の多くの人々がウルトラマンバスに元気をもらい、そして基金に感謝しています。本当にありがとうございました。



第三セクター 大槌地域振興(株)
代表取締役社長 松橋 雅平

* 「ウルトラマン基金」の詳細については、WEBサイト(<http://www.ultraman-kikin.jp/>)をご覧ください。



©ヒーローズ

全国のセブン-イレブンなどで販売
【創刊号 価格¥200】

新マンガ雑誌 月刊ヒーローズ創刊

(株)ヒーローズは、世界を視野に入れたエンタテインメントを、本気で作ります。

(株)ヒーローズは、マンガを文字や映像と同じ表現手段の一つとして考えています。そして、制作の最初から世界を視野に入れ、多彩なヒーローを生み出すために様々な才能を組み合わせるスタジオ方式に挑戦しました。これまでにないコンセプトを掲げた月刊ヒーローズに今後ともご期待下さい。



HEROES (株)ヒーローズとは？

これまでにないコンセプトを掲げた青年向け月刊コミック誌を創刊し新たなコンテンツを世の中に創出するため、当社と日本の出版界をリードし続ける小学館グループの(株)小学館クリエイティブとの共同出資により2010年4月に設立しました。



(株)ヒーローズに対するご意見



日本に住む多くの皆さんに勇気と元気を与えて欲しいと思います。

当社は、アニメーションを通じて多くの人々に感動を与えたいと幾多の挑戦を続けていますが、フィールズグループの持っているチャレンジ精神にはいつも感心させられます。

月刊ヒーローズは、雑誌としても真正面からチャレンジしていると感じていますし、目先の人気だけではなく、更にその先を見据えて育てていくという姿勢に面白さがあると思います。

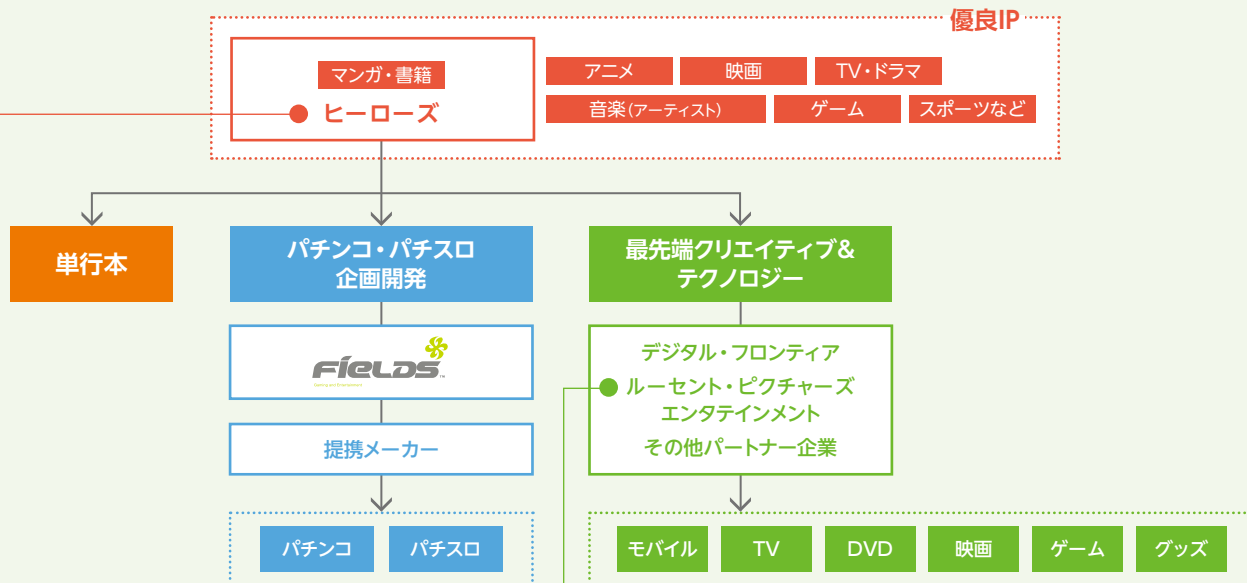
個人的には「ULTRAMAN」や「ドラゴンエフェクト」などの作品が好きで期待しています。このような時代だからこそ“攻め”の姿勢を大切に、 “ヒーローズ”を通じて、今後も日本に住む多くの皆さんに勇気と元気を与えて欲しいと思います。

(株)プロダクション・アイジー 代表取締役社長 石川 光久

*インタビューの詳細は、WEBサイト(<http://www.fields.biz/ir/>)をご覧ください。

■ フィールズグループでの展開例

月刊ヒーローズの創刊によって生み出された作品は、フィールズグループが挑戦している優良IP (知的財産) 創出の一例であり、このIPを、今後は様々なエンタテインメント領域でマルチユース展開していきます。



新作アニメーション映画「ベルセルク」2012年2月公開

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)は、3D映像関連技術を活かし、国内外のパートナー企業との連携を深めるとともに、新たな作品公開に向けた取り組みを推進しています。その一つが2012年2月公開の新作アニメーション映画「ベルセルク」です。



©三浦建太郎(スタジオ我画)・白泉社/
BERSERK FILM PARTNERS

圧倒的世界観で描かれる現代マンガ不朽の傑作を完全映画化します。



ルーセント・ピクチャーズ エンタテインメント(株)とは?

最先端の立体変換技術と効率的な制作体制を用いた立体映像コンテンツや、アニメーションを中心とした映像コンテンツの企画、開発、制作、販売までをトータルプロデュースしています。

連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度末 2011年3月31日現在	当第2四半期連結会計期間末 2011年9月30日現在	増減額
資産の部			
流動資産	51,051	32,250	△18,801
固定資産	27,920	30,851	+2,931
資産合計	78,971	63,102	△15,869
負債の部			
流動負債	27,587	10,205	△17,382
固定負債	4,362	4,211	△151
負債合計	31,949	14,417	△17,532
純資産の部			
株主資本	47,601	49,199	+1,598
その他の包括利益累計額	△821	△749	+72
少数株主持分	242	235	△7
純資産合計	47,021	48,685	+1,664
負債純資産合計	78,971	63,102	△15,869

流動資産の主な差異

「受取手形及び売掛金」は、前期末から23,001百万円減の4,947百万円となりました。これは遊技機の販売に伴う売掛金の回収などによるものです。

また、「現金及び預金」は、前期末から2,192百万円増の18,065百万円となりました。

固定資産の主な差異

「投資その他の資産」は、前期末から2,636百万円増の15,397百万円となりました。これはジャパン・スポーツ・マーケティング(株)の解散・清算に伴い繰延税金資産を計上したことなどによるものです。

流動負債の主な差異

「支払手形及び買掛金」は、前期末から14,760百万円減の3,179百万円となりました。これはパチスロ遊技機の仕入れに伴う買掛金の支払いなどによるものです。

株主資本の主な差異

「利益剰余金」は、前期末から1,598百万円増の35,042百万円となりました。これは四半期純利益を計上したことによるものです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、5,332百万円の収入となりました。これは主力のパチンコ・パチスロ関連事業において下半期偏重の販売計画であることから、当上半期の遊技機販売台数が減少したことによるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	当第2四半期連結累計期間 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,199	5,332	△5,867
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,738	△1,932	+806
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,580	△1,241	+1,339
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△5	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,875	2,153	△3,722
現金及び現金同等物の期首残高	15,906	15,632	△274
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,782	17,785	△3,997

連結損益計算書 (セグメント情報含む)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	当第2四半期連結累計期間 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	増減率(%)
売上高	43,012	33,352	△22.5
PS・フィールド	38,499	29,568	△23.2
モバイル・フィールド	1,059	1,149	+8.5
スポーツエンタテインメント・フィールド	1,082	1,031	△4.7
その他・フィールド	2,615	2,299	△12.1
調整額	△243	△696	—
売上原価	24,020	21,368	△11.0
売上総利益	18,991	11,983	△36.9
販売費及び一般管理費	9,809	10,401	+6.0
営業利益	9,182	1,582	△82.8
PS・フィールド	9,109	1,711	△81.2
モバイル・フィールド	199	62	△68.8
スポーツエンタテインメント・フィールド	△140	△34	—
その他・フィールド	58	△139	—
調整額	△44	△18	—
営業外収益	469	356	△24.1
営業外費用	148	224	+51.4
経常利益	9,503	1,713	△82.0
特別利益	406	8	△98.0
特別損失	182	96	△47.3
税金等調整前四半期純利益	9,727	1,625	△83.3
法人税等	4,302	△800	—
少数株主損益調整前四半期純利益	5,424	2,425	△55.3
少数株主損失(△)	△3	△3	—
四半期純利益	5,428	2,428	△55.3

売上高

売上高は、前年同期比22.5%減の33,352百万円となりました。これは主力のパチンコ・パチスロ関連事業が東日本大震災による影響を勘案して下半期偏重の販売計画であることから、上半期はパチスロ遊技機「SAMURAI 7」「旋風の用心棒～胡蝶の記憶～」、パチンコ遊技機「CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-」の3機種の発売にとどまったことによるものです。

営業利益

営業利益は、前年同期比82.8%減の1,582百万円となりました。これは遊技機の販売台数の減少に加え、モバイル分野での先行投資が発生したことなどによるものです。

営業利益—その他・フィールド

その他・フィールドの営業損失は139百万円となりましたが、のれん償却額136百万円を含んでいます。

四半期純利益

四半期純利益は、前年同期比55.3%減の2,428百万円となりました。これはジャパン・スポーツ・マーケティング(株)の解散・清算に伴い繰延税金資産を計上したため法人税等が減少したことによるものです。

コーポレートデータ

会社概要

(2011年9月30日現在)

商号	フィールズ株式会社 (英文: FIELDS CORPORATION)
企業理念	「すべての人に最高の余暇を」
設立	1988年6月
本社所在地	〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号 E・スペースタワー
事業内容	1. 遊技機の企画開発 2. 遊技機の仕入、販売 3. キャラクター、コンテンツの企画開発、販売 4. 映像ソフトの企画開発、販売
資本金	7,948百万円
従業員数	1,157名(連結)
連結対象会社	フィールズジュニア(株) (株)フューチャースコープ ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) (株)円谷プロダクション (株)デジタル・フロンティア 他 10社

役員

(2011年6月22日現在)

代表取締役会長	山本 英俊
代表取締役社長	大屋 高志
専務取締役(グループ事業管掌 兼 事業本部長)	繁松 徹也
専務取締役(PS事業管掌)	秋山 清晴
常務取締役(コンテンツ本部長)	栗原 正和
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(営業本部長)	藤井 晶
取締役(会長室長)	末永 徹
社外取締役	糸井 重里
社外監査役 常勤	松下 滋
社外監査役	小池 敕夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎
執行役員(計画管理本部副本部長 兼 同本部財務・予算部長)	小澤 謙一
執行役員(コーポレートコミュニケーション室長)	畑中 英昭
執行役員(開発本部長)	藤島 輝男
執行役員(営業本部 兼 同本部販売戦略部長 兼 同本部北海道・東北支社長)	若園 秀夫
執行役員(グループ事業開発部長 兼 エグゼクティブプロデューサ)	小澤 洋介
執行役員(コンテンツ本部副本部長 兼 同本部企画推進部長)	黒川 裕介
執行役員(コンテンツ本部副本部長 兼 同本部研究開発部長)	大塩 忠正
執行役員(事業本部付 エグゼクティブプロデューサ 兼 コンシューマ事業部長)	
(ジャパン・スポーツ・マーケティング(株) 代表取締役社長)	菊池 伸之
執行役員(事業本部付 エグゼクティブプロデューサ)	
((株)デジタル・フロンティア 代表取締役社長)	植木 英則
執行役員(事業本部付 エグゼクティブプロデューサ)	
(ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株) 代表取締役社長)	鎌形 英一
執行役員(事業本部付 エグゼクティブプロデューサ)	
((株)フューチャースコープ 代表取締役社長)	富永 政雄

(注) ()内は主たる役職となっています。

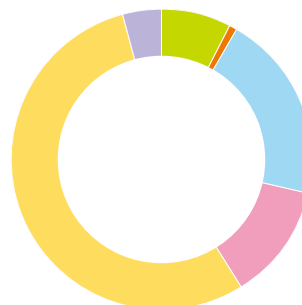
株式情報

(2011年9月30日現在)

株式状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
自己名義株式	14,885株
株主数	8,977名

所有者別株式分布状況



● 金融機関	8.01%
● 金融商品取引業者	0.79%
● その他国内法人	20.77%
● 外国法人等	13.00%
● 個人・その他	53.14%
● 自己名義株式	4.29%

大株主

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
山本 英俊	86,750	25.00
(株)SANKYO	52,050	15.00
山本 剛史	36,128	10.41
(有)ミント	16,000	4.61
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	8,038	2.32
資産管理サービス信託銀行(株)(証券投資信託口)	7,954	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	7,755	2.23
ビービーエイチルクス ファイデリティ ファンズ ジャパン アドバンテージ	5,249	1.51
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブ アカウント アメリカン クライアント	4,983	1.44
大屋 高志	4,500	1.30

*当社所有の自己名義株式は除いています。

様々な面からIR活動を充実させていきます。

当社は、株主及び個人投資家の皆様との信頼関係の構築に向けて、積極的にIR活動を推進しています。なかでも、多くの皆様と直接コミュニケーションを図るため、今夏は福岡及び徳島で個人投資家向け会社説明会を開催しました。ご来場頂いた皆様には、当社経営陣から事業戦略や成長戦略についてご説明すると同時に、皆様からも数多くの貴重なご意見を頂きました。

このほかにも、当事業の理解促進に向けて証券会社向け会社説明会なども開催しており、今後も様々な面からIR活動を充実させることで、株主及び個人投資家の皆様からご支持とご理解を頂けるよう努めてまいります。

●「個人投資家向け会社説明会」の概要

日時	場所	来場者数
6月24日	福岡会場 (天神ビル)	176名
6月30日	徳島会場 (ホテルグランドパレス徳島)	115名

*協力:モーニングスター(株)、(株)日本証券新聞社、徳島合同証券(株)



福岡会場



徳島会場

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	
定時株主総会・期末配当	毎年3月31日
中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行(株)
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行(株) 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031(フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行(株)の全国各支店並びに日本証券代行(株)の本店及び全国各支店で行っております。
上場証券取引所	大阪証券取引所(JASDAQ) 証券コード:2767
公告方法	電子公告 URL http://www.fields.biz (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

●住所変更のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行(株)にお申出ください。

●「配当金計算書」について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用頂くことができます。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

第三者によるフィールズの分析レポート

経済評論家、マネーエコノミスト 杉村 富生

フィールズ(株)の経営理念に加え、社会的な貢献、活発なIR活動を評価しています。

パチンコ・パチスロ市場は行政など外部環境の影響を受けやすい業態です。そのなかにあつて、フィールズ(株)は安定成長を続けています。これは特筆すべきことです。ダーウィンは「強く賢いものだけが生き残ったのではない。変化に対応できたものが生き残ったのだ」と指摘しています。まさに、フィールズ(株)がそうではありませんか。

ビジネスモデルのユニークさに加え、的確な企業買収・提携戦略、タイムリーな新製品の投入(市場の変化に対応)が成長を支えています。さらに自己資本比率59.2%、実質無借金に示される好財務内容、ROE(株主資本利益率)17.1%(上場企業の平均値は8%前後)が物語る収益力の高さに注目できます。

株式の上場は2003年3月です。“新興企業”と位置づけられています。経営陣、従業員の皆さんは若く働き盛りです。これは大きな魅力です。実は、「“19の春”投資法」(筆者が提唱)ではこの点が最大のポイントになります。すなわち、元気な、若い企業に投資するのです。

ちなみに、“19の春”とは「いまさら離縁というならば元の19にしておくれ、枯れ木に花が咲くならば元の19になれるのに…」の唄をヒントにしています。要するに、どんなに悔やんでも過去は取り戻せません。

20歳、30歳の昔には戻れないのです。しかし、元気な、若い企業に投資することによって、結果的にその願いがか

なうのです。投資家の皆さんが別の仕事をしたり、余暇を楽しんでいる間に、フィールズ(株)は一生懸命に頑張ってくれます。“利”を生みます。これがお金に働いてもらう!という考え方です。

株式投資は“夢とロマン”ではありませんか。フィールズ(株)はその候補(対象)になり得る企業です。筆者は「すべての人に最高の余暇を」という基本コンセプト(経営理念)が気に入っています。

さらに、社会的な貢献、活発なIR活動も評価できます。結論的には長期投資に適した銘柄です。とはいえ、外部要因が不透明な状況(特に金融不安の存在下)では高ROE、低PBR(現状はPBR1倍割れ)銘柄が買われる、という経験則があります。この点は要注目ではありませんか。



杉村 富生
(すぎむら とみお)

実践派の経済評論家、大正大学教授。ラジオ日経に「みんなでシッカリ財形ライフ!」「株宅配便」などにレギュラー出演、分かりやすい経済・金融の解説、的確な株価分析には定評がある。講演会は人気を博している。証券業界では“富を生む”男(本名)といわれている。



www.fields.biz

すべての人に最高の余暇を

／ 企業理念への想い

VOICE

「すべての人に最高の余暇」。この企業理念の実現を目指し、私たちは成長を続けてまいりました。近年、パチンコ・パチスロ事業のみならず幅広いエンタテインメント事業へと進出し、収益構造も多様化してきた今こそ、フィールズグループ全体の成長戦略を支えるさらに健全な財務体制を構築することが私の使命だと考えています。

株主の皆様におかれましては、私たちのさらなる成長にご期待頂き、引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

文・表紙文字=取締役(計画管理本部長) 山中 裕之

IRお問い合わせ先

フィールズ株式会社
コーポレートコミュニケーション室 IR課
Tel: 03-5784-2109
Mail: ir@fields.biz

